

第3回 向陽学府小中一体校建設検討会 会議概要

1	開催日時	令和4年5月30日(月)
2	開催場所	磐田市役所西庁舎 3階 301～303 会議室
3	出席者(向陽学府小中一体校建設検討委員)	
	学識経験者	千葉大学大学院工学研究科教授
	地区代表	向笠地区長 向笠地区住民代表 大藤地区長 大藤地区住民代表 岩田地区長 岩田地区住民代表
	保護者代表	向陽中学校PTA代表 向笠小学校PTA代表 大藤小学校PTA代表 岩田小学校PTA代表 向笠幼稚園PTA代表 大藤こども園PTA代表 岩田こども園PTA代表
	学校・園代表	向陽中学校長 向笠小学校長 大藤小学校長 岩田小学校長 向笠幼稚園長 大藤こども園長
	県教委	義務教育課指導監
4	出席職員	教育長 教育部長 教育総務課長 教育総務課 施設管理G長 学校教育課長 学校教育課 課長補佐 地域づくり応援課 課長補佐 福祉課 課長補佐 高齢者支援課 地域包括ケア推進G長
5	事務局	学府一体校推進室
6	設計者	株式会社山下設計 3人

会議概要

1 教育長挨拶

先日、岩田交流センターで、柳澤先生にも来ていただき、ワークショップを実施した。小学生から自治会の方など幅広い方から意見をいただき進めていきたいと思う。

前回の検討会では、文化財課の方とも協議をした方がよいとの御意見をいただいた。文化財課は、教育委員会の中にあるので随時協議を行っている。最近、文化財調査を実施した結果、遺跡が見つかり2年間建てることができなかった事例もある。文化財調査、駐車場、道路の拡幅についても触れていきたい。また、スクールバスについても報告させていただく。いろいろな形で情報を示していきたい。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

2 議事

今回は、学年コモンズとラーニングセンターについて議論を行った。また前回の検討会で出された意見について、事務局の考えを示した。

(1) 第2回ワークショップの報告

(設計者より)

「未来の学びの場を考えよう」という議題で、学年コモンズとラーニングセンターについて議論を行った。

【学年コモンズについて】

- ・1-2年生のコモンズでは幼稚園から上がったばかりなので、遊びや協調性を育む場所にしたい。
- ・3-7年生のコモンズでは、友達同士で勉強を教えあう場としたい。
- ・8-9年生のコモンズでは、受験勉強に備え、本棚や仮眠ができる場所があってもよい。といった意見があった。

【ラーニングセンターについて】

- ・「学び」「休み時間」「イベント」の3つの視点で意見を伺った。
- ・「学び」での活用については、日本語禁止コーナーや、日課の中で運用をしてはどうかといった意見があった。
- ・「休み時間」の活用では、自由に居場所が選択できるように、低学年も安心して使える、縦割り班でも使えるようにといった意見をいただいた。
- ・「イベント」での活用では、幼稚園との交流、地域とのイベント、全学年が参加できるイベントをしたいなどの意見があった。

(1) 学年コモンズについて

委員から順番に意見を伺った。

(委員)

- ・ワークショップに参加し、小学生、中学生の意見には夢があり尊重していきたいと感じた。イベントで食育やお弁当など、同じ学年の中でクラスを超えた交流ができるとよい。
- ・学びでの活用だと、絵本の読み聞かせスペースがあるとよいのではないかと。休み時間は、雨の日でも体を動かせるスペース、例えばボルダリングの壁などがあるとよいのでは。イベントでは、同じ趣味の仲間を見つけられるように、掲示板を作ってはどうか。イベントと学びでは外部の講師を招くなどに活用できればと思う。
- ・更衣室は学年ごとに設けたほうが良いのではないかと。更衣室専用とするともったいないので、先生のリモート授業用のスペースとして兼用してはどうか。
- ・更衣室は、全学年で男女を分けたほうが良いのではないかと。

(設計者)

- ・学校全体の中で、更衣室としても、多目的室としても使える室を計画していきたい。

- ・学年コモンズも授業と授業の間のリラックスやスイッチを入れ替える場所として整備したほうが良いのではないか。

(委員長)

- ・学年コモンズについて現状の事例で把握している情報があれば教えていただきたい。

(事務局)

- ・ながふじ学府では共有のスペースを設けている。そこには生徒の作品を掲示したりしている。共用スペースは完全に閉め切って空調したりはしておらず、換気をしながら運用している。音については、生徒たちに静かに移動してもらうなど運用をしている。向陽学府も同様に運営していきたい。

(委員長)

- ・過去の事例で、教室と廊下の間に関仕切りが一切ないオープンスクールもあるが、音の問題などがあり、オープンにしすぎると使いづらいという声もある。最近では閉じたり開いたりできるよう、建具を使って柔軟に使えるようにしている。あえて他のクラスが見えるようにすると、一体的な使い方を促す効果もある。

(委員)

- ・中学校は空き教室があるが、使い分けできるとよい。間仕切りを移動するなどして使い分けができるよいのではないか。

(委員)

- ・学年コモンズは、学級担任だけではなく、学年担当の教員に相談できるとよいと感じた。ラーニングセンターは、地域の方が図書館として活用できるようになれば、総合の時間などで地域の方が足を運んでくれる機会が増えるのではないか。

(委員長)

- ・地域の方が学校に来る際に、直接教室に来るのではなく、ワンクッション、コモンズのような場所があるとよい。クラスの先生同士が気を遣って、利用が進まないこともある。逆に先生が自分のクラスにこもれなくなるので、助け合いが生まれるなどの効果もあると聞いている。学級崩壊が起こりにくいなど。

(委員)

- ・例えば 8-9 年生など、数学の授業などを行っているときに、コモンズに地域の方がいて、すぐに教えてもらえるスペースや、縦割りでのプロジェクト学習で、教室外でも学べるスペースがあるとよい。

(委員)

- ・合唱の練習や、地域の方を招いてのトーク&トークなどができるとよいのではないか。前任校で実施した実績がある。磐田茶が飲めるスペースなど。

(3) ラーニングセンターについて
委員から順番に意見を伺った。

(委員)

- ・ICTを活用し、どこかの小学校とWEBで交流をして、自分の地域を発表するなどしてもよいのではないか。授業では学べないことが学べると思う。

(委員長)

- ・大きなスクリーンやモニターなどがあるとよいのでは。オンラインでは移動しなくてもよいので、利点もある。海外などとも交流が持てる。姉妹校など。

(教育長)

- ・実際にオーストラリアの小学校と交流をした実績もある。教員も交流できるようになるとよいのでは。

(委員長)

- ・大学でもイタリアの大学との合同授業も実施した。子供達にはよい機会となる。そういった場所としてラーニングセンターを使えると良い。

(委員)

- ・未就園園児も来られる日があるとよい。セキュリティも気になる。オープンだと危ないこともある。運用方法が決まっていれば教えてほしい。いつでも来られるのか、また決まった日だけなのか、またラーニングセンターと普通教室の間のセキュリティなど。

(事務局)

- ・地域開放のスペースと学校のスペースは分けて計画している。地域開放するエリアは地域連携室、福祉交流支援室、ランチルームなど。ただし、議論にあった地域との交流などはCSDさんが中心となって、ご協力いただける地域の方を招いていく形で継続していきたい。学校エリアに誰でも入れるようなことは想定していない。

(委員長)

- ・ラーニングセンターは地域開放室には入っていない。普段は入れないが、イベント時には利用できるようにするなどを想定している。運用方法は今後議論していく必要がある。開放する際のセキュリティ区画はハード面としても整備していく必要がある。

(委員)

- ・学年コモンズとラーニングセンターの違いが良くわからない。学年コモンズはよいが、そのせいで教室が狭くなるのは困る。基本は教室で、それに付随してスペースがあるということが重要であると思う。

(委員長)

- ・学年コモンズのせいで教室が狭くなっているということはない。学年コモンズは学年の共有スペースとなる学年集会や、少人数学級など。ラーニングセンターは、学校全体での共用スペースとなる。
- ・地域との交流や学校全体でのイベントなど。学校によって、地域によって、必要なス

ペースは変わっていくと思う。学年コモンズとラーニングセンター、どちらでもできる活動もある。

(委員)

- ・基本は学校に任せてよいと思う。その時々で先生方の得意分野も異なる。何に使ってもよいのではないか。ラーニングセンターに司書さんもいるので、具体的に何に使うかというところまでは、今考えなくてもよいのではないか。
- ・私も基本は学校に任せてよいと思う。学年コモンズに学年職員室のような場所が、職員室とは別に必要ではないか。ラーニングセンターは目玉になるので、いろいろな先生の意見を出し合って、知恵を結晶して作ってけるとよい。
- ・私も基本は学校に任せてよいと思う。ひな人形や五月人形など、今は文化が廃れてきている。そういった各家に眠っているものを展示してもよいのではないか。行事や文化を引き継いでいけるとよい。

(委員)

- ・東京では外国人が多く、ホテルでも英語が飛び交っている。岩田の北部地区だから英語ができないというのでは駄目である。2-5-2制というユニークな取り組みも必要である。外国語教室で地域ボランティアを募って英会話教室をするなど。またラーニングセンターに顕微鏡を置けば、生徒たちは自主的に草花を取って観察したりすると思う。理科室に置いておくだけではホコリをかぶっているだけとなる。また子ども新聞の閲覧スペースを設けるなど、環境を整えれば、子どもたちはどんどん学んでいく。ユニークでオープンな仕掛けをしていくチャンスであると思う。

(委員)

- ・いろいろな意見を見て夢を見てもよいと思った。忘れてはならないのは、向陽学府のコンセプトである「日本一やさしさが育つ学校」である。まだまだ広報が足りないと感じている。これにブレがないようにしていかなければならない。向笠小の子供はとてもやさしい。これは人数が少ないということもあり、縦割り活動がしっかりしているからだと思う。こども園とどうかかわっていくか、また地域の先輩方とどうかかわっていくか、それをコモンズの中でやっていければよいと思う。「日本一やさしさが育つ学校」をいうコンセプトにそってこれからも考えていきたい。

(委員長)

- ・学年コモンズは、学年ごとに、児童の発達段階に応じた使い方、ラーニングセンターは学校全体、また地域の方、未就学児、高齢の方などを含めた活用ができるとよい。これらの二つの空間を利用することで「日本一やさしさが育つ学校」が実現できるのではないか。これは建築のハード面というより学府、地域での運用面にかかっていることもあるので、皆様の力で盛り上げていくことが重要である。

(委員)

- ・今いる園児たちが通う学校になるので、園児たちが通いたくなるような、活動の見える学校になるとよいのではないか。向笠幼稚園の児童はすごく優しい。それは地域の力と家庭の力と、向笠の緑に囲まれた自然の中ではぐくまれていくものだと思う。何か特別なことをするのではなく、今ある環境の中で、環境を活かして、ホッとできる学校になるとよい。また主体的な学びが求められる中で、自ら選べる学びの場を作っていくことが重要になってくると思う。受け身ではなく、学びたいこと、人を招いて教えてもらうなど、地域にいる人材を活かして取り入れていく、そしてそれが子供たちの意欲につながると思う。

(委員長)

- ・オンラインで、NASAの人に話を聞いたりする事例もある。外部の講師を招いたコミュニケーションも実現できると思う。子供たちの学びたい気持ちを尊重できるような教育や、場を学校の中でつくってけるとよい。

(委員)

- ・県内の教育でも磐田の地域に根付いた教育はトップランナーだと思う。子供たちの活動に対して制限を掛けないということが重要ではないか。例えば、授業中に気になったことがあれば外に出て行って確かめてみるなど。最近では1学級の35人全員が先生の話を聞くという授業は少なくなっている。知識はインターネットで手に入るの、その知識をどう使うか、またどう対話ができるかなど、小さなスペースや分散できるようにしておくことが重要であると感じた。また不登校の生徒が来たときに、汽水域のように教室と廊下という二極化ではなくて、交流してつながりがもてるスペースがあってよいと感じた。

(4) 配置計画について

前回の検討会で出た意見を踏まえ、検討を行っている内容についてご報告をした。

(事務局)

- ・駐車場計画について、改めて必要な駐車台数について整理している。職員、給食員、多機能型施設を利用する方などを含め100台を超える台数を確保していきたい。まずは敷地内にて最大限駐車台数を確保できるよう検討していきたい。
- ・北側道路の拡幅については、4mを確保する計画とする。また、スクールバスのロータリーまでは幅員7mを確保できるよう計画していく。
- ・プールの利用頻度、維持管理をふまえ、大藤小の既存プールを活用する案で検討を進めていきたい。向陽中の現在同位置に整備する場合は、大プールと小プールを整備する必要がありグラウンドが狭くなる。プールを利用するのは一年のうち1カ月程度

であるため、通年で利用するグラウンドの面積を優先させた方が良いと考えた。

- ・実際に大藤小のプールを利用した場合、小プールと大プールがあり、小プールを利用する1・2年生の水遊びは十分可能である。各学年3クラスとすると、夏に行う週あたりの総時間数は18時間となるため、一クラスずつ入ることができる。3～9年生は大プールを使用する。週あたりの総時間数は小学校が33時間、中学校が27時間、合計60時間となる。週あたりの時数は最大29時間であるが、一つのコマに2クラスずつ行ったとしても足りなくなる。この場合は3クラスの授業が何時間か入ることになる。これは大規模校で実績がある。たとえば現状のながふじ学府同様に、小学校は6月～7月、中学生は9月に授業を行う、また中学校は2時間続きの授業カリキュラムとすることで、運営が可能になるのではないかと考えている。

(委員)

- ・プールの運営について具体的な数値が出てきて安心した。3クラス同時に入る場合は体育の先生は何人ぐらいつくのか。監視の目が不安である。また更衣室の数が足りないのではないかと。

(事務局)

- ・監視の目という件では、小学校の先生は各クラスに1名教員がいる。また支援員さんがつくと一クラスに対して2名体制となる。中学校については、体育教員がつくことになる。現状はいかがか。

(委員)

- ・現状は1.5人程度となる。免許を持った教員は2名いるが、1学年と2学年の分担である。授業は体育の免許を持った教員が行う。

(事務局)

- ・更衣室については引き続き検討する。

(委員)

- ・道路について敷地東側を通過して南側に下ることはできないか。検討したか。

(事務局)

- ・東側の道路は私有地である。南側の門もかつてミカンの出荷をしており、そういった建物のための通路であった。学校の敷地ではないため、利用できるとはいえない。

(委員)

- ・現状のプールは壊すのか。大藤小のプールはこども園も使用しているのか。バスが遅れた、事故をした場合はどうなるのか。バスは何台運行するのか。

(事務局)

- ・既存のプールは昭和30年代に整備したもので耐用年数が過ぎているため解体する。大藤こども園もプールを利用していると聞いている。こども園と合同で使用していくことも検討していきたい。学府バスは現状市に7台ある。運営台数は何クラス分の

授業をやるかによって変わってくる。運営に合わせて計画していきたい。バスが事故をした場合は、バスの運行を委託している業者からすぐに連絡が入るような体制を組んでいるので、教育総務課の方で対応していく。

(委員)

- ・この学校の最大のイベントは何なのか。最大限のスペースを常に確保する必要はないか、一時的にどのような処置をするかは考えていく必要がある。イベント対応も検討してほしい。

(事務局)

- ・一番大きなイベントは運動会である。全校生徒の親御さん分の駐車場を常にキープするのは現実的ではない。例えば、既存の小学校に駐車スペースを確保しておいて、バスでピストンするなど、検討していきたい。

(委員)

- ・テニスコートは駐車場にできないか。将来もテニスコートは必要か。

(委員)

- ・テニス部について、現状は各学年 10 名程度在籍しており、3 面を有効活用している。今後も現状通り 3 面確保していただきたい。車の件であるが、明日は体育大会である。現状 208 名で、車があふれてしまっている。事前に通知し、相乗りや徒歩で来ることを推奨するなど案内している。雨の日は 7 時 45 分から 8 時までの間に車が集中している。小学校とは時間帯の運営で工夫できれば一度に 9 学年分の車が来ることは避けられるのではないか。

(教育長)

- ・事務局のほうで、必要台数はシミュレーションしている。必要な土地については現状公にできない。特別に集まらないといけない場合はグラウンドに停める、また運動会の時は先ほど校長からあったように事前に案内をして、運営でも協力してもらう必要がある。十分に検討しながらやっていきたい。

(事務局)

- ・スクールバスの運行基準について説明する。通学距離の全国基準では、小学校で 4 k m 以内、中学校は 6 k m 以内となるが、この基準から外れる場合については、スクールバスを運行することで通学可能となる。これまで磐田市スクールバス検討委員会の中で議論を行った。通学支援として、児童生徒の心身の負担、保護者の負担軽減のためスクールバスを運行する。また坂道の身体的な負担について論文のデータをもとに議論を行っている。磐田市では通学距離の基準を、勾配 6% を超える坂道、距離 1 k m 以上、高低差 60m 以上を通う場合は、小学校 3 k m 以内、中学校 4 k m 以内としている。磐田市では坂道の影響をふまえ、全国基準に比べスクールバスに乗ること

のできる児童生徒の割合は多くなっている。

(委員)

- ・向陽学府ではどの範囲でバスを運行するのか、分かりやすく伝えてほしい。

(事務局)

- ・次回以降お伝えできればと思う。

(事務局)

・本日も様々な意見をありがとうございました。次回以降の予定はメールで連絡させていただく。資料も回覧等で展開していきたい。引き続きご協力をお願いしたい。

(教育長)

- ・日本一やさしさが育つ学校を目指して、今後も議論していきたい。